巻頭要約　2020 年のオートキャンプ概況

2020 年のオートキャンプ概況
コロナ禍で流行語大賞にも

2020 年の始まりは、前年から引き続いて冬キャンプ人気の高まりからキャンプ場は賑わい、好調な滑り出しをみせたが、新型コロナウイルスの感染が拡大したことで状況は一変した。

1 月上旬に中国・武漢市で発生したクラスターは瞬く間に世界中に拡散した。日本でも 1 月中旬に武漢市から帰国した神奈川県の感染者が確認されたことを発端に、大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」での船内感染、2 月の「さっぽろ雪まつり」に関連したクラスター発生など感染者が拡大した。

3 月 2 日から全国の学校を対象とした一斉臨時休校の方針が出され、3 月 16 日以降は、ほぼすべての学校が休校となった。他方で、屋外の遊びであるキャンプは比較的「3 密」にならないとの見方から、マスコミなどでもキャンプが紹介されるようになる。

4 月 7 日、7 都府県（埼玉、千葉、東京、神奈川、大阪、兵庫、福岡）を対象に緊急事態宣言が発令され、4 月 16 日に対象地域が全都道府県に拡大されたことにより、キャンプの最初のピークを迎えるゴールデンウィークに全国のほとんどのキャンプ場が閉鎖を余儀なくされた。

キャンプのもう一つのピークである夏には、8 月に福岡県で「コロナ警報」が出るなど、地域により感染者数が増加したこともあり、お盆時期に影響が出たところもあった。

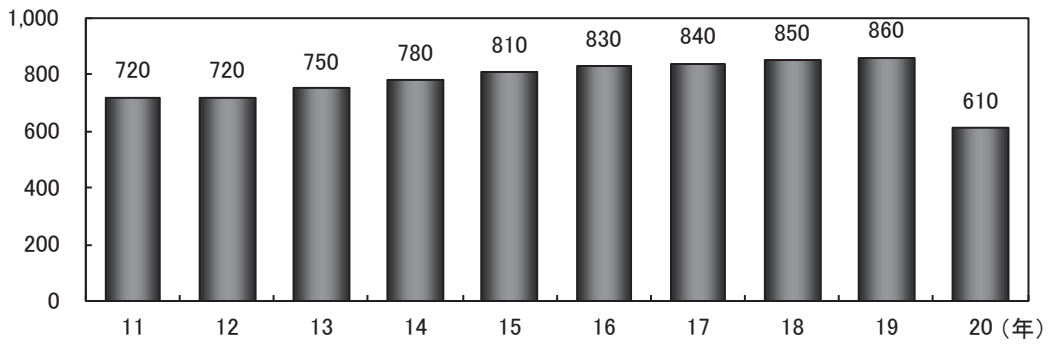
またキャンプ場によっては、利用者同士の距離を離すために隣接するサイトを空けて営業した。これらのキャンプ場では、営業サイト数が通常よりも少ないことから夏以後も例年より利用者減となった。

こうしたコロナ禍による厳しい状況のなかで 20 年のオートキャンプ参加人口は 610 万人となった。これは 19 年から約 3 割の減であるが、日帰りを含む国内旅行者の数は前年の約 50％となっており、オートキャンプに対する影響は比較的少なかったと言える。

その一方で、外出や移動が制限されたこともあり、多くのメディアでキャンプが取り上げられ、日常生活でキャンプ道具を使う「おうちキャンプ」や、自宅のベランダでグランピング気分をあじわう「ベランピング」などといった言葉が生み出され、移動が制限されているなかで人々のあいだに「キャンプに行きたい」という気持ちが醸成された。

そうした状況を反映して、その年話題となった新語・流行語を決める「流行語大賞」のトップ 10 に「ソロキャンプ」が入るなど 1 年を通じてキャンプが注目を集めた。

オートキャンプ参加人口の推移（推定値）



オートキャンプ活動の実態

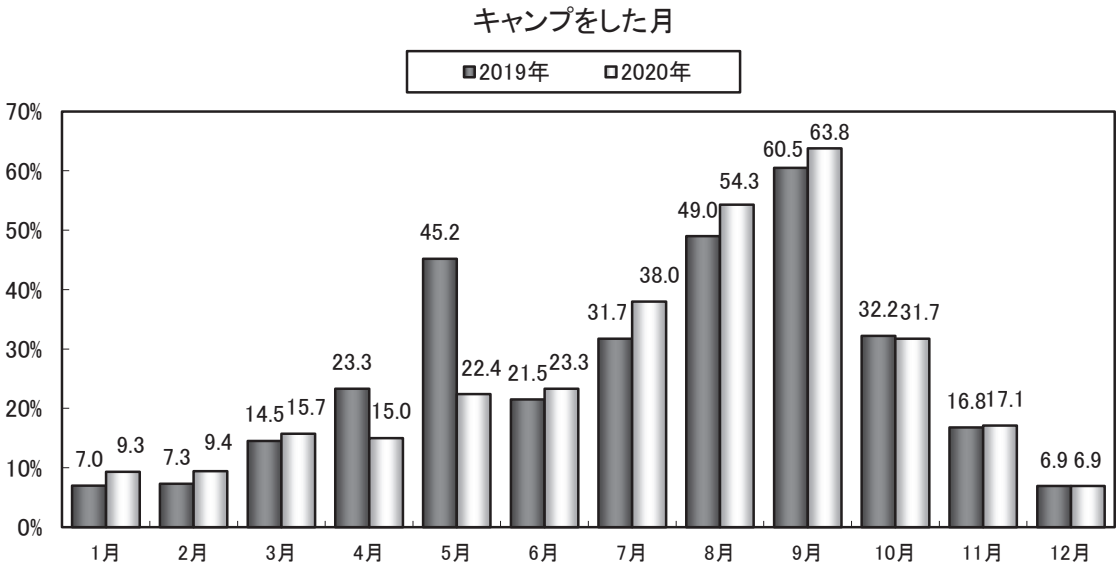
回数、泊数とも前年を上回る

20 年のキャンパーの特徴として、20 代の増加と、ビギナー増加によるキャンプ経験年数の減があげられる。20 代が占める割合は 10.2％と前年比 2.7 ポイント増となっており、17 年 6.3％、18 年 6.6％、19 年 7.5％と年々増加傾向にある。こうした若年層の増加を裏付けるように「経験年数 1 年」のビギナーが 19 年の 22.6％から 20 年は 25.9％と 3.3 ポイント上昇する一方で、「キャンプ経験年数」は 7.3 年と 0.1 年の減となっている。

「キャンプの同行者」を見ると、メディアで注目された「1 人（ソロキャンプ）」は 11.1％と 19 年 9.4％から 1.7 ポイントの増となった。その影響もあり、「今回のキャンプの人数」は、平均で 3.6 人と 19 年の 4.3 人から 0.7 人のマイナスとなっている。

キャンプに行く頻度はコロナ禍においても上昇傾向をみせた。「1 年間でキャンプに行った回数」は平均 4.6 回で、19 年の 4.4 回から 0.2 回増。「1 年間にキャンプ場に泊まった泊数」は平均 6.1 泊で、19 年 5.8 泊、18 年 5.5 泊、17 年 5.0 泊とこの 4 年で最多の数値となった。

好調な数字の一方で 20 年の大きな特徴は「キャンプをした月」にはっきりと出ている。例年最初のピークでゴールデンウィークを含む 4 月・5 月が「緊急事態宣言」による移動の自粛などにより前年を大きく下回った。



オートキャンプ場の実態

コロナ禍により稼働率が減少

オートキャンプ場は、新型コロナウイルス感染の緊急事態宣言などにより、3 月 8.1％、4 月 85.0％、5 月には 97.7％が休業した。再開後もテントサイトの間隔を空けるため、キャンプ場の 41.8％がサイト数を減らすなど制限されたなかで営業を行った。そのため 11 年から連続して前年を上回っていたキャンプ場の稼働率は、19 年の 17.5％から 1.2 ポイント下がり 16.3％となった。

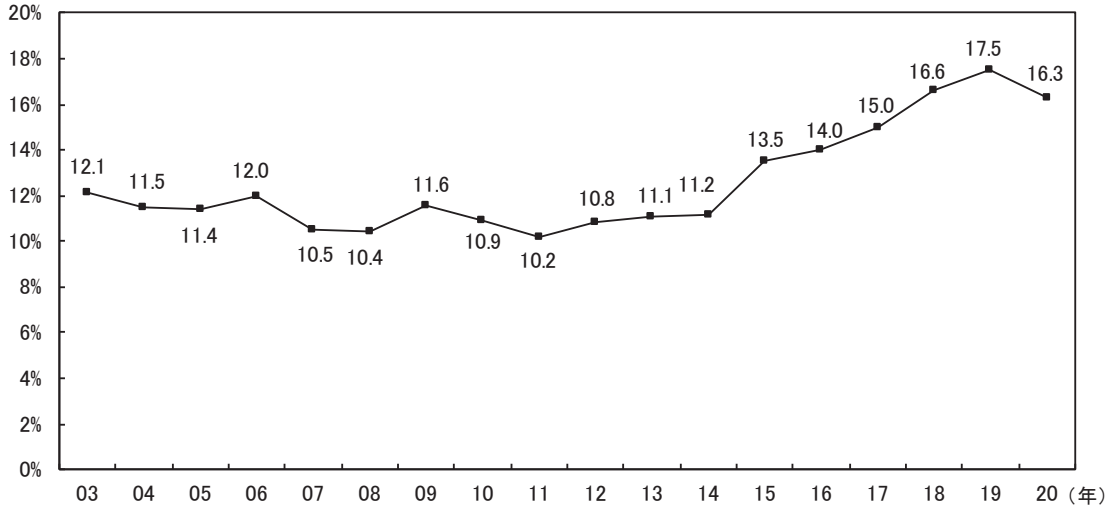
施設面では「管理棟で可能な無線 LAN（Wi-Fi）」は 46.6％で 19 年から 7.7 ポイント増、「サイトで可能な無線 LAN（Wi-Fi）」は 16.4％と少ないながら 19 年より 7.0 ポイント増と Wi-Fi 環境の整備が進んでいる。

来場者の傾向では「ソロキャンパーが増えた」65.6％（19 年 51.7％）が最も多く、「初心者が増えた」が 45.0％（19 年 33.9％）、新規調査項目の「平日の利用者が増えた」が 37.6％で 3 位となっている。キャンプ場の料金は家族 3 ～ 4 人を想定した設定が多く、増加傾向のソロキャンパーにとって割高感があり、より多くのソロキャンパーを獲得するために 7.9％のキャンプ場がソロキャンパー割引を導入している。

「キャンプ場内事故」の総件数は多くはない。その中で毎年 1 位となる項目は「ケガ・病気」だが、20 年は「焚火」に関連する事故が最も多く、「オノやナタを使って薪割りをする際のケガ」や「焚火による火傷」といった事例が目立った。焚火人気の高まりと、初心者が増えていることからこうした事故が多くなったとみられる。

キャンプ場から見たキャンパーの「マナー」では、「良くなってきた」15.3％（19 年 18.1％）が 2.8 ポイント減少しているのに対し、「悪くなった」21.2％（19 年 12.8％）は 8.4 ポイント増加しており、マナーを守れなくなっていると感じているキャンプ場が増えている。「悪くなった」の具体的な例では、「無断キャンセル」、「施設の破損」、「ゴミの分別を守らない」、「焚火による被害」など、初心者が増えたことに起因すると思われる内容が多くあげられた。

平均稼働率



キャンプ用品の需要動向

秋・冬も年間通じて購入

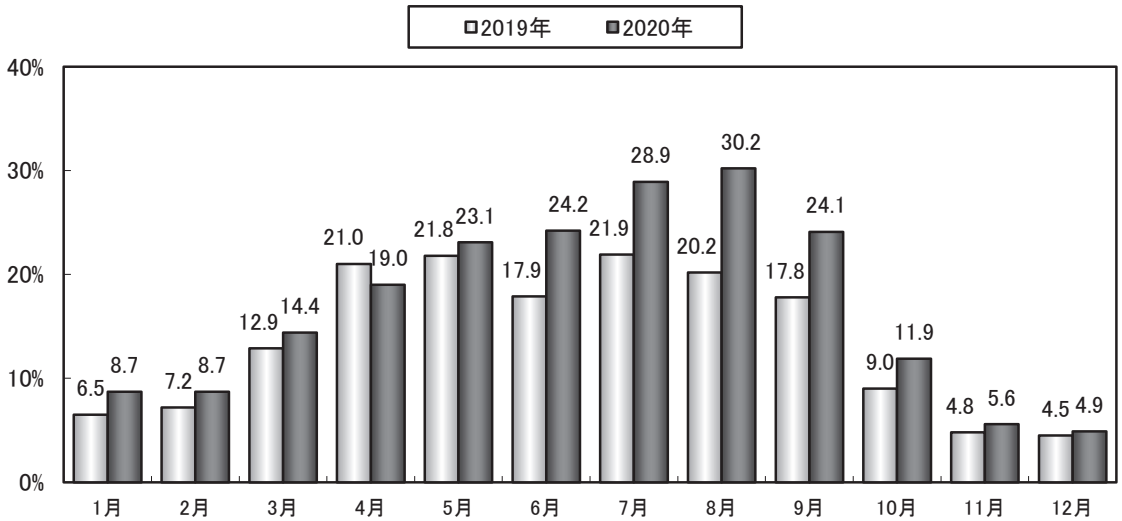
そのほとんどが海外で生産されているテントの輸入金額は 129 億 7,000 万円（19 年 118 億 4,000 万円）と前年から 11 億 3,000 万円・9.5％増となり、キャンプ用品の販売の好調さを表している。

アウトドアショップへのアンケートでは、「焚火、ソロキャンプの用品が 19 年に引き続き好調だった」、「冬キャンプの広がりで年間を通して需要があった」、「自宅の庭やベランダで使用するなど自宅でキャンプ用品を使う人が増えたようだ」、「在宅ワーク用にコンパクトになるキャンプ用のテーブルやイスを買う人もみられた」、「他のレジャーと比較して密を避けるレジャーとして人気が高まった」、「入門者が増えたため、テントをはじめとしたキャンプ用品全般の需要が高まった」、「入門者では家族やソロに加え 2 人の『デュオキャンパー』なども増えた」、中には「需要が急増したため製品の供給が追い付かないものもあった」という意見も聞かれた。

アウトドア用品の購入先は 19 年に「インターネットなどの通信販売」が「アウトドアショップ」を抜いて 1 位になったが、20 年は「インターネットなどの通信販売」がさらに伸び、50.5％（19 年 41.6％）と初めて 5 割を超えた。

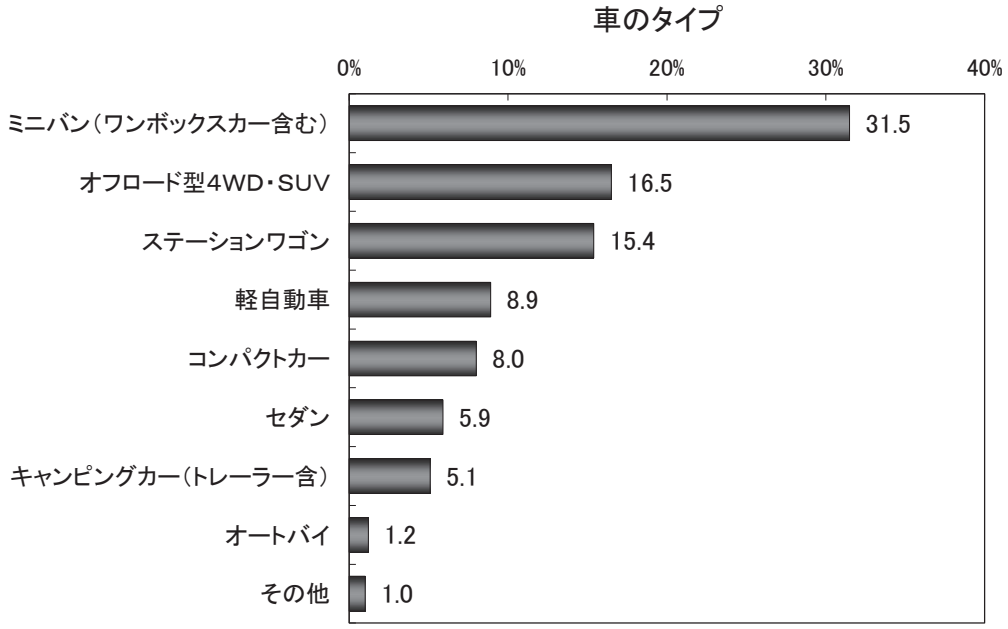
購入時期を見ると、20 年は 1 月～ 3 月までは 19 年を上回り、「緊急事態宣言」が発令された 4 月は 19 年を下回ったものの、5 月以降は前年を上回った。特に夏から秋にかけて前年を大きく上回り、ほぼ 1 年を通じて購入が活発だった様子が表れている。

購入時期



オートキャンプに使う車
「クロスオーバーモデル」が２位に

キャンプに使用する車のタイプでは、「ミニバン（ワンボックスカー含む）」が最も多く 31.5％（19 年 33.4％）と前年から微減ながら順位に変わりはない。２位は「オフロード型４ＷＤ・ＳＵＶ」16.5％（19 年 13.9％）となり、19 年２位だった「ステーションワゴン」15.4％（19 年 15.5％）が３位となった。「ＳＵＶ」では近年、「クロスオーバーモデル」などと呼ばれる、街中での快適な走行と日常生活での使いやすさを求めるモデルの人気が高まっており、こうした傾向がキャンプにも表れているとみられる。

また「１人（ソロキャンプ）」で使う車は、「軽自動車」が 30.8％と前年から 15.9 ポイント上昇している一方、「オートバイ」が 19 年の 23.0％から 9.0％と 14 ポイントのマイナスとなっており、軽自動車に１人分の荷物を積み込み、１人のキャンプを楽しむ「ソロキャンプ」が増えている様子が表れている。

キャンプ場でのキャンピングカー（トレーラーを含む）の割合は全体の 5.1％（19 年 4.3％）と大きな変化はないが、キャンプ以外の目的でキャンピングカーを購入する人も多く、登録台数は堅調に伸びている。全国で「キャンピング車」として登録されている台数は 2020 年３月末現在 10 万 6,789 台、19 年の 10 万 5,563 台から前年比 1,226 台・1.2％（19 年前年比 398 台・0.4％）増となった。廉価なキャンピングカーとして注目を集めた軽自動車をベース車としたキャンピングカー（キャンピントレーラーを含む）も、2,644 台（19 年 2,484 台）と 19 年から 160 台・6.4％増と堅調に増加している。